

大学進学と就職に関する調査

今春卒業予定の大学生・大学院生に対して、大学受験時にどのような進学先選びをおこなったか、大学入学後の満足度はどうだったかを尋ね、就職先企業の志望度や専攻分野との関連性を調べた。その結果、将来のキャリアを見据えて進路選びをすることで、満足度の高い大学生活を送ることができ、就職の際にもカギとなることが確認できた。

目次

I. 大学進学と就職について

- (1) 入学した大学の志望順位と大学生活の満足度
- (2) 大学の志望理由と進学先選択時のキャリア意識
- (3) 就職先企業の志望度と専攻分野との関連性
- (4) 就職活動で有利だと思う学部・学科

II. 進学時のキャリア意識と大学生活および就職の満足度の関係

- (1) キャリア意識と【大学生活満足度】の相関性
- (2) キャリア意識と【専門分野との関連性】【就職先企業志望度】の相関性

III. 進学先選びのポイント

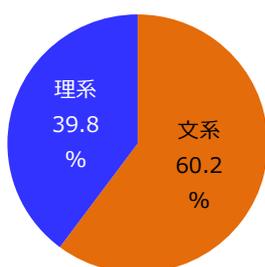
- (1) 入学した大学・学部・学科を志望した理由（進学時のキャリア意識別）
- (2) もし大学受験をやり直せるとしたら
- (3) オープンキャンパス参加経験

IV. コメント集

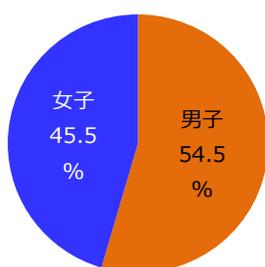
調査概要

- 調査対象 : 2018年3月に卒業予定の大学4年生のうち就職先企業を決定した人
(理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答者数 : 761人 (文系男子227人、文系女子231人、理系男子188人、理系女子115人)
- 調査方法 : インターネット調査
- 調査期間 : 2017年12月15日～20日
- サンプリング : キャリタス就活2018 学生モニター
- 調査機関 : 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ／キャリアス進学事業企画部

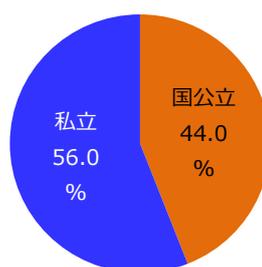
文理



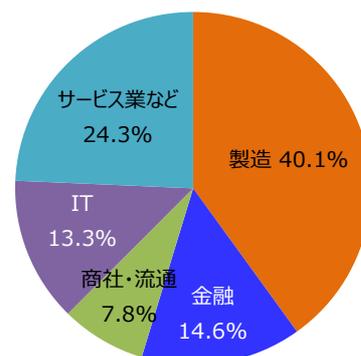
男女



大学設置区分



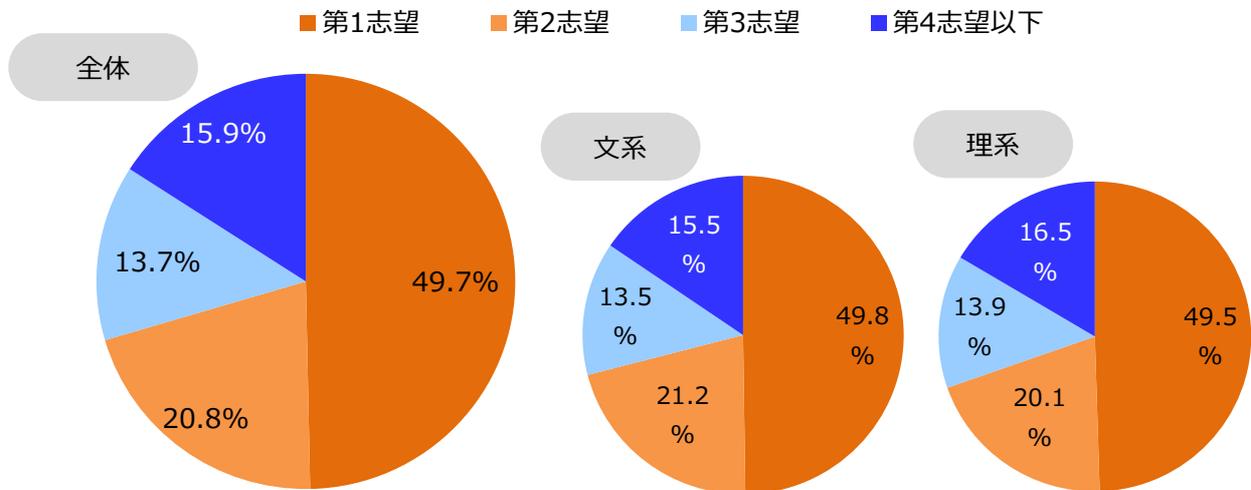
就職先企業の業種



I. 大学進学と就職について

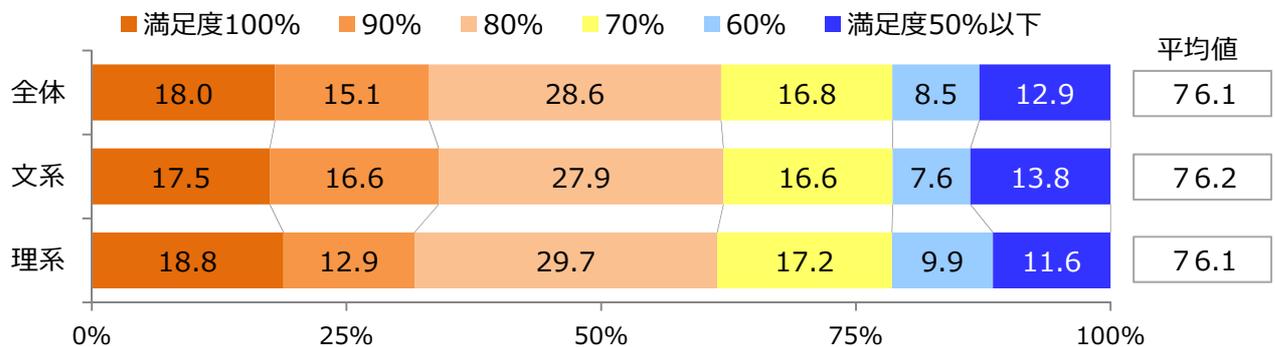
(1) 入学した大学の志望順位と大学生活の満足度

■ 入学した大学・学部・学科の志望順位（受験時何番目の志望だったか）



- 回答者の約半数（49.7%）は、第1志望の大学に入学。
- 第4志望以下の大学に入学した人は全体の15.9%。
- 文理ともに、8割以上が志望順位の高い（第1～3志望）大学に入学している。

■ 大学生活の満足度



- 「満足度80%」の回答割合が最も高く（28.6%）、「満足度50%以下」は12.9%。
- 満足度の平均値は76.1%で、総じて大学生活への満足度は高い。
- 文理による大きな差は見られない。

【「満足度100%」の理由】

- 自分の学びたかったことについて学ぶことができた。尊敬する教授や友人に出会えた。 <文系男子>
- 学びたいことに打ち込むことができ、就職先にも概ね満足している。 <理系男子>
- 学部では幅広く学べて、思っていたよりも充実した大学生活を送れたから。 <文系女子>

【「満足度50%以下」の理由】

- 専攻分野とはまったく異なる業界に就職することを決め、大学での学びに意味がなかったように感じている。 <文系女子>
- 学部卒ではあまり就職に強くない学科で、就職活動に対するサポートもほとんどなかった。 <理系男子>
- 英語教育や国際系の科目に期待して入学したが、実際には非常に国際系の科目が少なく、留学等の補助金やサポートも微妙だった。 <文系男子>

(2) 大学の志望理由と進学先選択時のキャリア意識

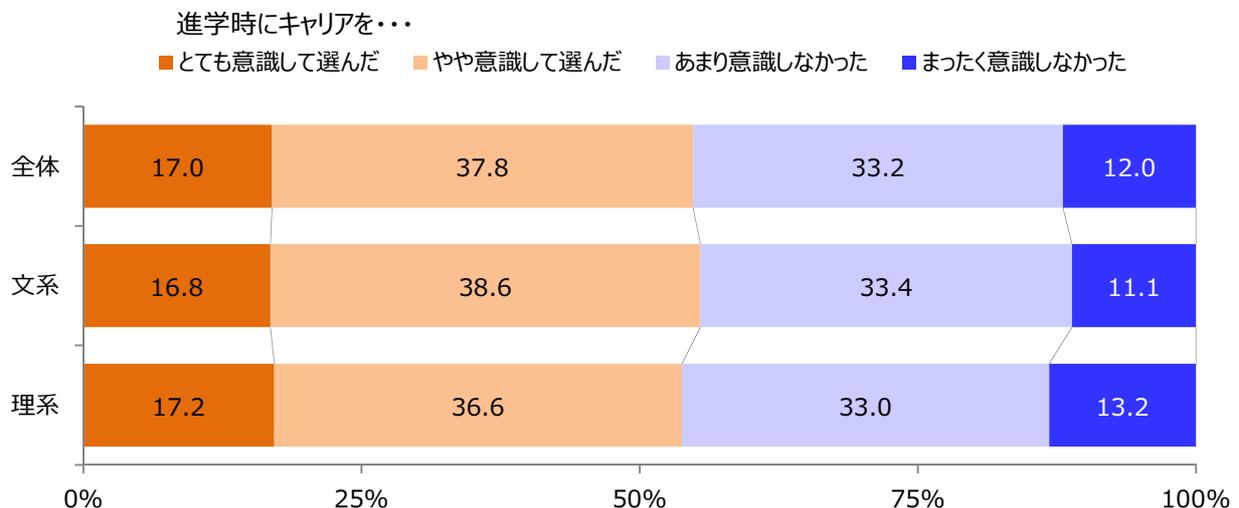
■ 入学した大学・学部・学科の志望理由（15項目中上位10項目）

		全体	文系	理系
1	偏差値（難易度）	62.8	62.7 (1)	63.0 (1)
2	学べる内容・目指せる資格	52.6	49.8 (2)	56.8 (2)
3	学校の立地	43.6	43.0 (4)	44.6 (3)
4	学校の知名度	40.5	43.4 (3)	36.0 (4)
5	試験科目	23.0	25.1 (5)	19.8 (7)
6	就職率・就職先	21.8	22.1 (7)	21.5 (5)
7	学校の雰囲気	21.0	22.5 (6)	18.8 (8)
8	入試方式	19.1	20.7 (8)	16.5 (10)
9	学費・生活費	18.3	16.6 (9)	20.8 (6)
10	親の意見	16.0	15.5 (10)	16.8 (9)

※()内、文理別の順位

- 最も多かったのは「偏差値（難易度）」で62.8%。次いで「学べる内容・目指せる資格」52.6%。
- 文理の差が大きい項目は「学校の知名度」と「学べる内容・目指せる資格」。
- 「学校の知名度」は文系の方が7.4ポイント高い（文系43.4%、理系36.0%）。
- 「学べる内容・目指せる資格」は理系の方が7.0ポイント高い（文系49.8%、理系56.8%）。

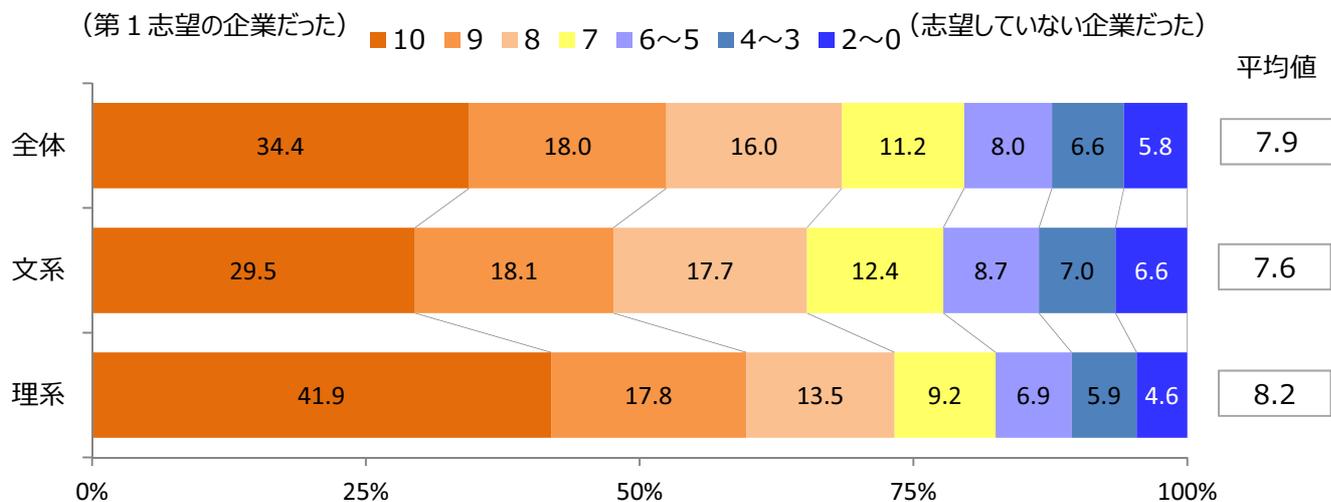
■ 進学先選択時のキャリア意識度（将来のキャリアや就職を意識して選んだか）



- 進学先を選ぶ際、将来のキャリアや就職を「とても意識した」あるいは「やや意識して選んだ」のは全体の54.8%。過半数がキャリアを意識した進学先選びをおこなっていた。ただし、「とても意識した」と回答したのは17.0%で、2割弱にとどまった。
- 文理による大きな差は見られない。

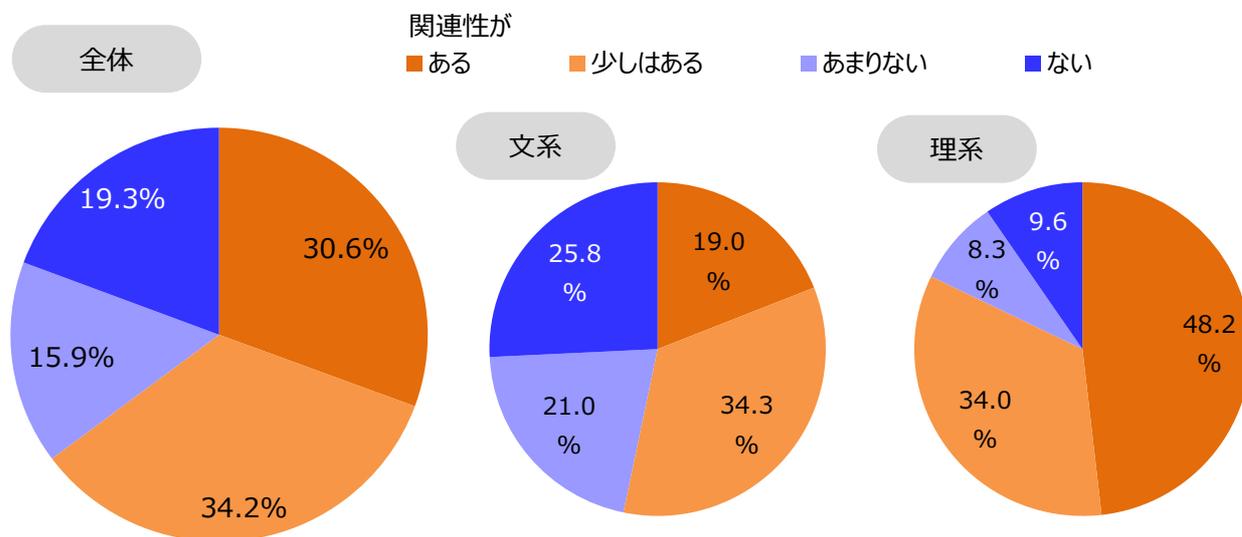
(3) 就職先企業の志望度と専攻分野との関連性

■ 就職先の企業の志望度（0から10の11段階で評価）



- 就職先企業が第1志望の企業だった（「10」と回答した）学生は、全体の34.4%。文系29.5%に対し、理系は41.9%で、理系学生の方が12.4ポイント高い。
- 就職志望度の平均値も理系の方が高く（文系7.6、理系8.2）、どちらかというと理系学生の方が志望度の高い企業に就職できていることがわかる。

■ 専攻分野との関連性（業種・職種が専攻分野と関連があると感じるか）

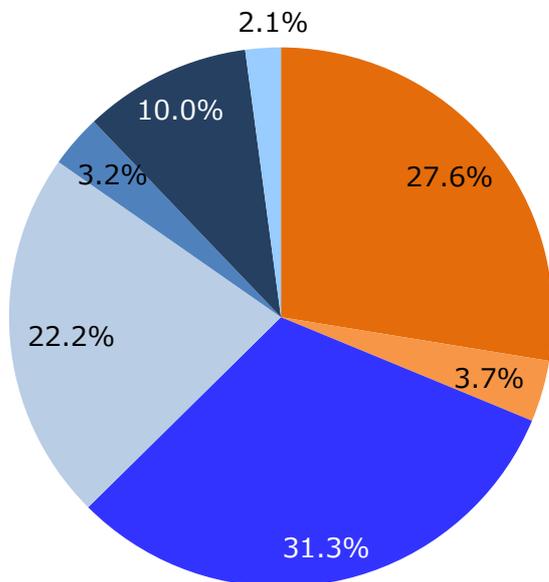


- 就職先企業の業種や職種が大学での専攻分野と「関係性がある」と回答した学生は全体の30.6%。
- 文理で大きく差が見られ、「関係性がある」は文系19.0%、理系48.2%と、29.2ポイントの開きがある。
- 理系については「少しはある」を含めると82.2%と8割を超え、多くの学生が関係性のある分野に就職していることが確認できる。
- 理系学生は大学での専攻分野と就職先とがより密接に繋がっていることがうかがえる。

(4) 就職活動で有利だと思う学部・学科

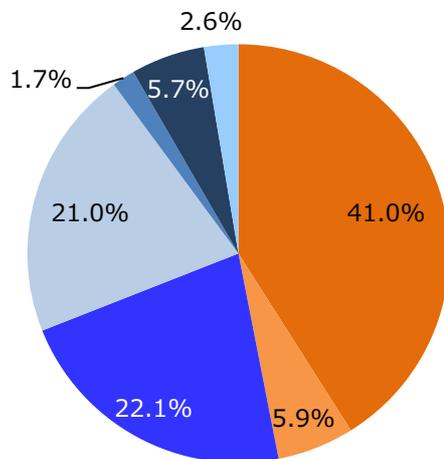
■ 就職活動で最も有利だと思う学部・学科

全体

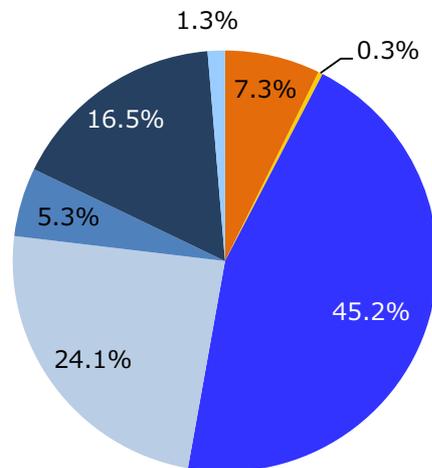


- 【文系】ビジネス系 (経済・経営・法など)
- 【文系】非ビジネス系 (文・教育・外国語・芸術など)
- 【理系】機械・電子電気系
- 【理系】情報系
- 【理系】土木・建築系
- 【理系】化学・農学・薬学系
- 【理系】物理・数学・その他

文系



理系

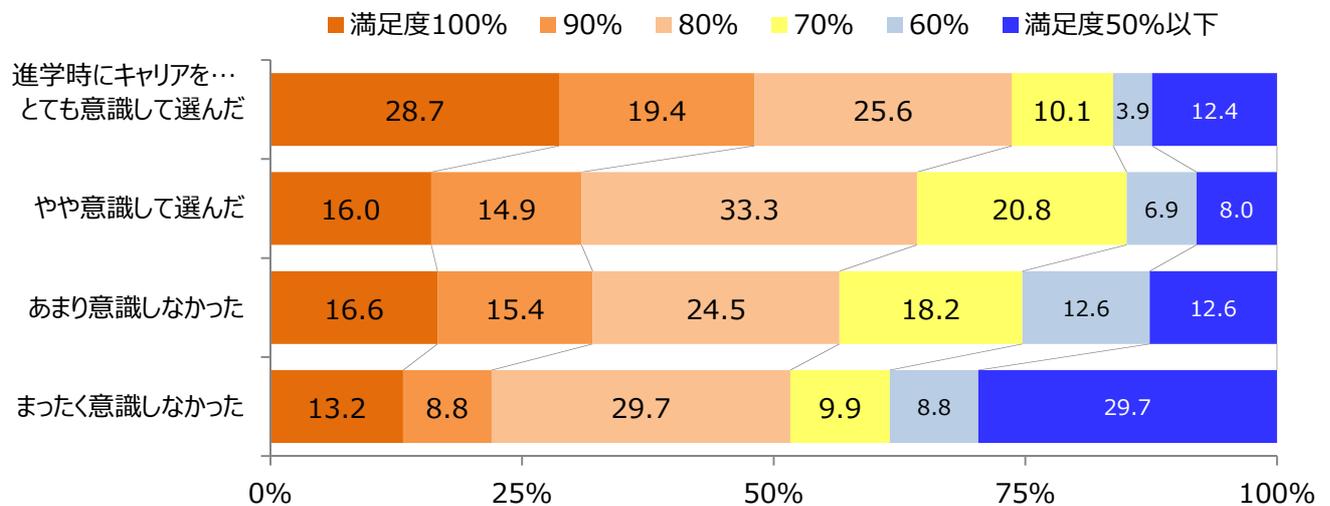


- 学生が就職に有利だと思う学部・学科の1位は「【理系】機械・電気電子系」(31.3%)。次いで「【文系】ビジネス系(経済・経営・法など)」が続く(27.6%)。
- 文理別に見ると、文系学生が最も多く選んだのは「【文系】ビジネス系」(41.0%)だが、以降は【理系】の系統が続く。
- 理系学生は「【理系】機械・電気電子系」が圧倒的に多い(45.2%)。
- 【理系】のいずれかの系統を回答した学生は、理系学生で9割超を占める、文系学生でも過半数。全体的に【理系】の学部系統の方が就職に有利だと感じていることが表れている。

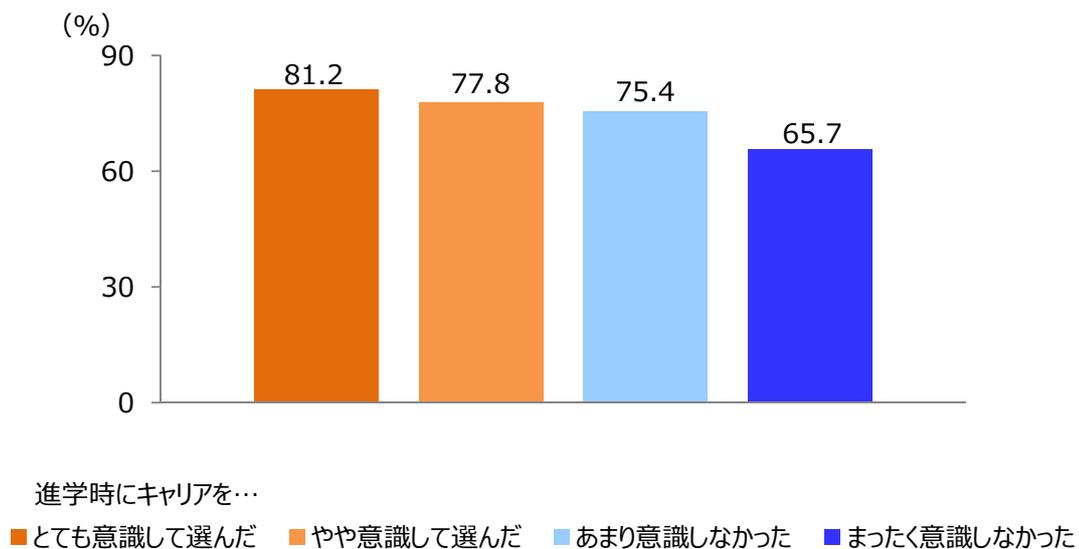
II. 進学時のキャリア意識と大学生活および就職の満足度の関係

(1) キャリア意識と【大学生活満足度】の相関性

■ 大学生生活の満足度（進学時のキャリア意識別）



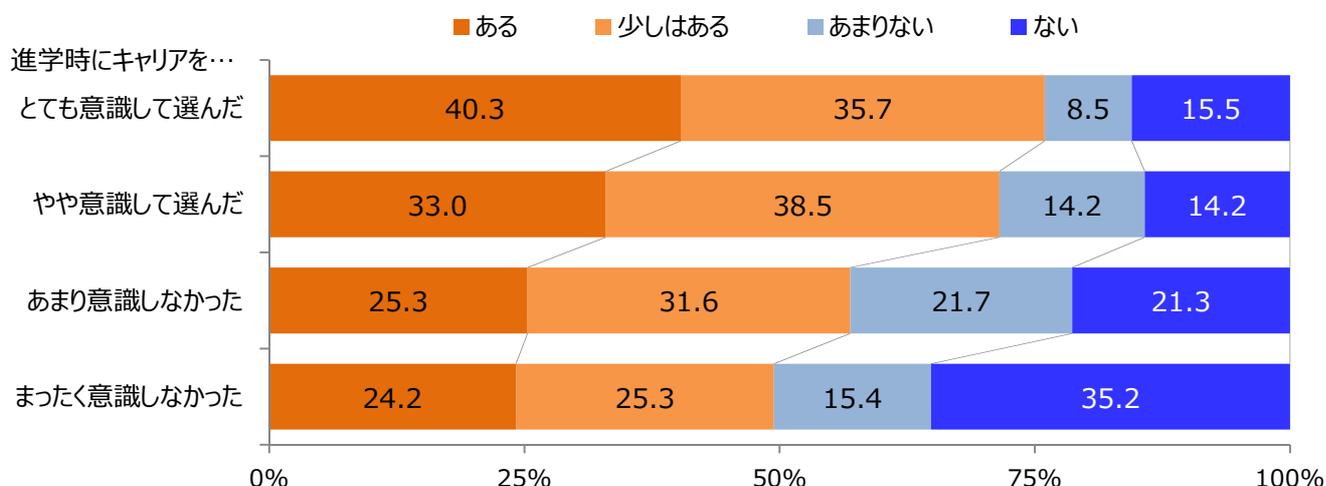
■ 大学生生活の満足度の平均値（進学時のキャリア意識別）



- 進学先を選ぶ際に将来のキャリアを「とても意識した」と回答したグループは、大学生活の満足度を100%と回答した割合が最も高い（28.7%）。逆に「まったく意識しなかった」と回答したグループでは13.2%にとどまり、両者の差は2倍以上に上る。
- 大学生活満足度の平均値にも、進学時にキャリアを意識したレベルが高いほど大学生活の満足度が高くなる傾向が見られる。「とても意識した」と「まったく意識しなかった」グループでは、平均満足度に15.5ポイントもの開きがあった。

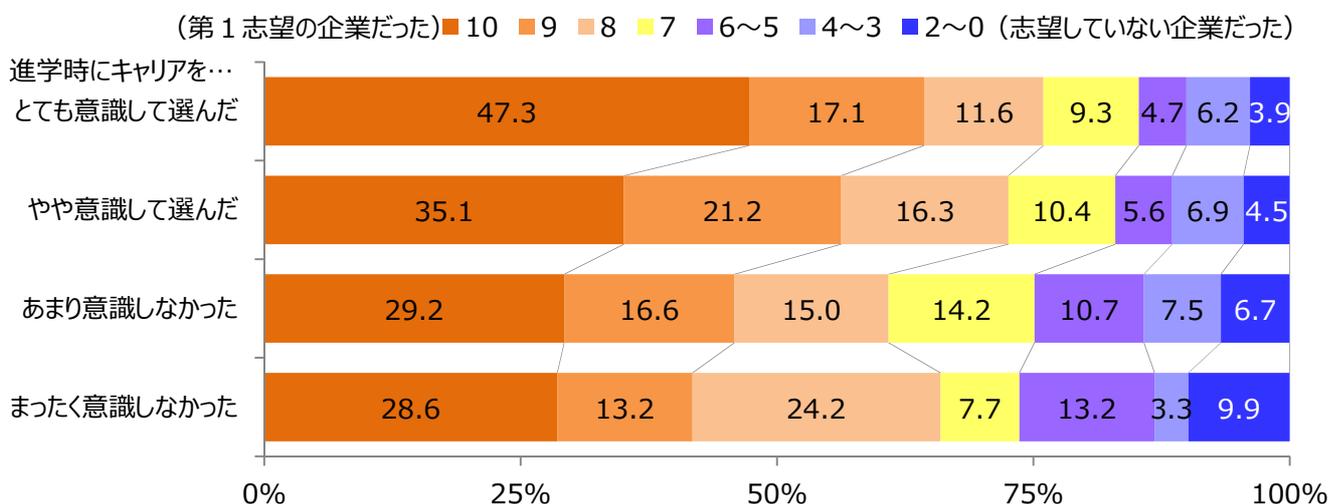
(2) キャリア意識と【専門分野との関連性】【就職先企業志望度】の相関性

■ 専攻分野との関連性（進学時のキャリア意識別）



- 進学時に将来のキャリアを「とても意識して選んだ」と回答したグループでは、就職先企業と大学の専攻分野に「関連性がある」または「少しはある」と回答した学生が計76.0%と、8割近くに上る。
- 一方、「まったく意識しなかった」グループでは、「関連性がある」または「少しはある」の合計は半数に満たない（計49.5%）。
- 進学時にキャリアを意識したレベルが高いほど、就職先企業と専攻分野との関連性が強くなる傾向が見られる。

■ 就職先の企業の志望度（進学時のキャリア意識別）



- 進学時に将来のキャリアを「とても意識して選んだ」と回答したグループは、就職先企業が第1志望の企業だった（「10」と回答した）割合が高く、47.3%と半数近くに上る。逆に、「まったく意識しなかった」グループでは28.6%にとどまり、その差は18.7ポイント。
- 大学生活の満足度同様に、就職先企業への志望度についても、進学時のキャリア意識レベルとの相関性が見られる。
- 進学先選びの段階から将来のキャリアへの長期的なビジョンを持つことで、志望領域と大学の専攻分野の関連性が高まり、大学生活の満足度の高さや志望度の高い企業への就職に結びついていると考えられる。

Ⅲ. 進学先選びのポイント

(1) 入学した大学・学部・学科を志望した理由（進学時のキャリア意識別）

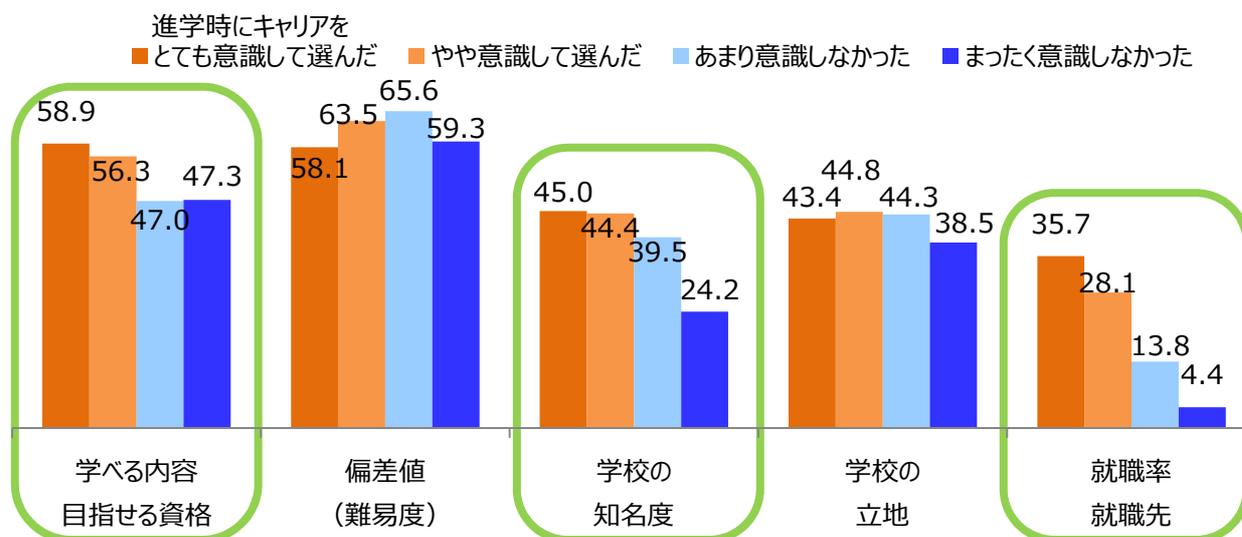
■ 入学した大学・学部・学科を志望した理由

15項目中上位10項目-表

		進学時にキャリアを とても意識して選んだ	やや意識 して選んだ	あまり意識 しなかった	まったく意識 しなかった
1	学べる内容・目指せる資格	58.9	56.3 (2)	47.0 (2)	47.3 (2)
2	偏差値（難易度）	58.1	63.5 (1)	65.6 (1)	59.3 (1)
3	学校の知名度	45.0	44.4 (4)	39.5 (4)	24.2 (4)
4	学校の立地	43.4	44.8 (3)	44.3 (3)	38.5 (3)
5	就職率・就職先	35.7	28.1 (5)	13.8 (10)	4.4 (11)
6	学校の雰囲気	22.5	20.8 (8)	22.5 (6)	15.4 (9)
7	入試方式	21.7	22.6 (7)	14.6 (9)	16.5 (7)
8	試験科目	19.4	23.3 (6)	25.3 (5)	20.9 (5)
9	親の意見	15.5	14.9 (10)	15.8 (8)	20.9 (6)
10	学費・生活費	14.0	18.8 (9)	20.6 (7)	16.5 (7)
平均選択個数		3.6	3.7	3.4	2.9

※()内、進学時のキャリア意識別の順位

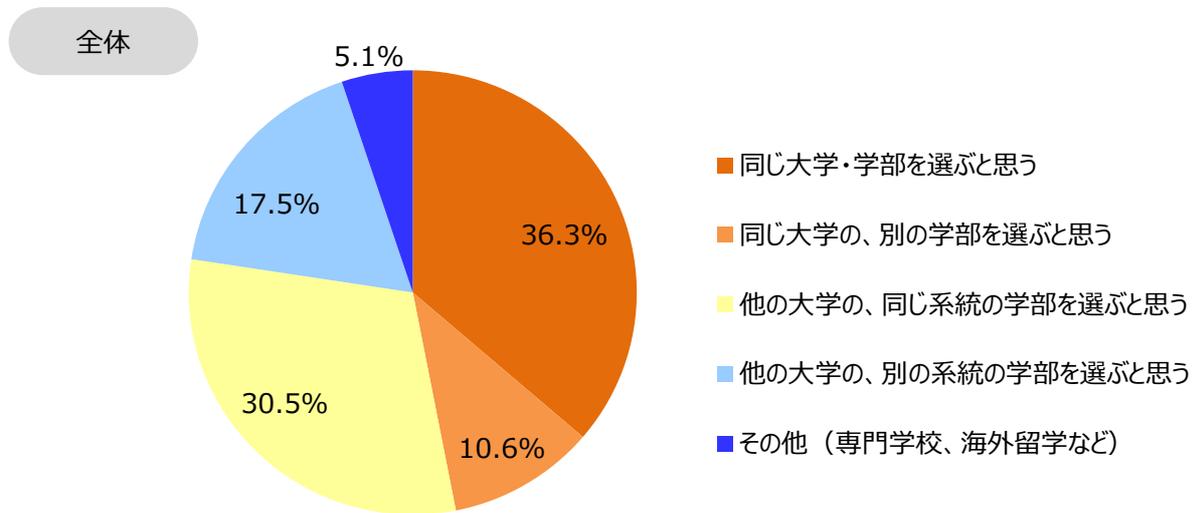
上位5項目-グラフ



- 進学時にキャリアを「とても意識して選んだ」グループは、大学の志望理由で一番多いのが「学べる内容・目指せる資格」（58.9%）。他のグループは「偏差値（難易度）」が最多。
- 「とても意識して選んだ」と「まったく意識しなかった」グループとで最も大きな差があるのは「就職率・就職先」。「とても意識して選んだ」グループは35.7%であるのに対して、「まったく意識しなかった」グループでは4.4%と、30ポイント以上の差がついている。
- また、「学校の知名度」も両者の差が大きく、「とても意識して選んだ」は45.0%、「まったく意識しなかった」は24.2%と、20ポイント以上の差があった。将来の就職を考えると、知名度の高い大学の方が有利と考える学生が多いとも解釈できる。
- さらに「とても意識して選んだ」グループは志望理由の選択項目数が平均3.6個であるのに対し、「まったく意識しなかった」では2.9個。将来のキャリアを意識して進学先を選んだ学生の方が、より多角的な面で志望校選びを行っていたようだ。

(2) もし大学受験をやり直せるとしたら

■ 大学受験をやり直せるとしたら、同じ大学・学部・学科を選ぶか



- 最も回答が多かったのは「同じ大学・学部を選ぶと思う」で36.3%。次いで「他の大学の、同じ系統の学部を選ぶと思う」が30.5%。
- 「同じ大学・学部を選ぶと思う」（36.3%）と「他の大学の、同じ系統の学部を選ぶと思う」（30.5%）を合わせると約7割（66.8%）に上り、大半の学生は学部の選択に満足していることがわかる。

【同じ大学・学部を選ぶと思う】

- 研究でやりたいことができ、就職先も希望が通ったから。 <理系男子>
- 進級が難しすぎることなく、部活や就活に力を入れつつも、ゼミなどでしっかり学業ができた。 <文系女子>
- 文系ならば、法学部以外はどこも同じようなもので、就職先にも特に影響しないので、同じ大学の同じ学部で良い。 <文系男子>

【同じ大学の別の学部を選ぶと思う】

- 今の学科よりもより就職に有利な学科を選べばよかった。 <文系男子>
- 薬学部など、資格がとれる学部に行けばよかった。 <理系女子>
- 大学には満足しているが、もう少し社会で働く上で実践的な内容を学べる学部だとよりよかったと思うから。 <文系女子>

【他の大学の同じ系統の学部を選ぶと思う】

- 就職において地方大学は不利であるから。 <文系男子>
- やり直せるとしたらもう少し勉強を頑張り、偏差値が高く就職に強い大学を狙いたい。 <理系男子>
- 今の学科よりもより就職に有利な学科を選べばよかったと思うから。 <文系女子>

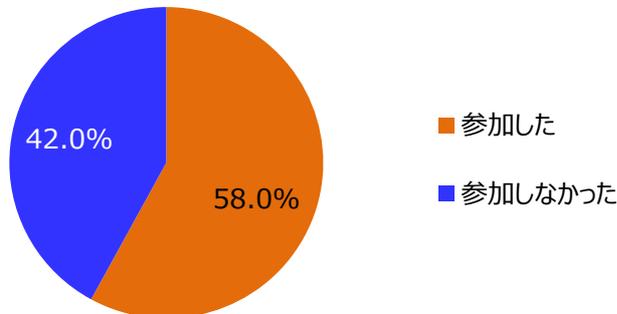
【他の大学の別の系統の学部を選ぶと思う】

- 第一志望であった大学にチャレンジしたい。別の学部の内容を学びたい気持ちになった。 <文系男子>
- 就職活動時に学歴がネックになったと感じた。また、サークル活動が盛んではなく、学生時代にやり残したことがたくさんあると感じたから。 <文系女子>
- 学費が高く、学業が忙しく、きついから。 <理系女子>

(3) オープンキャンパス参加経験

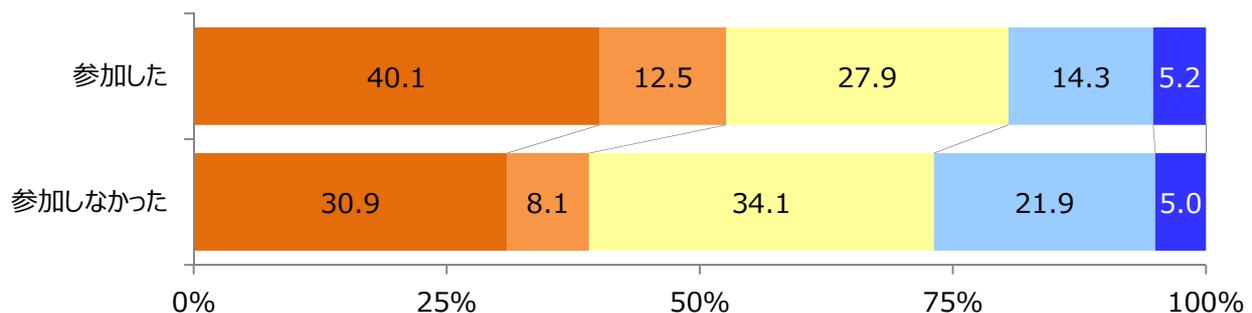
■ オープンキャンパス参加経験

全体



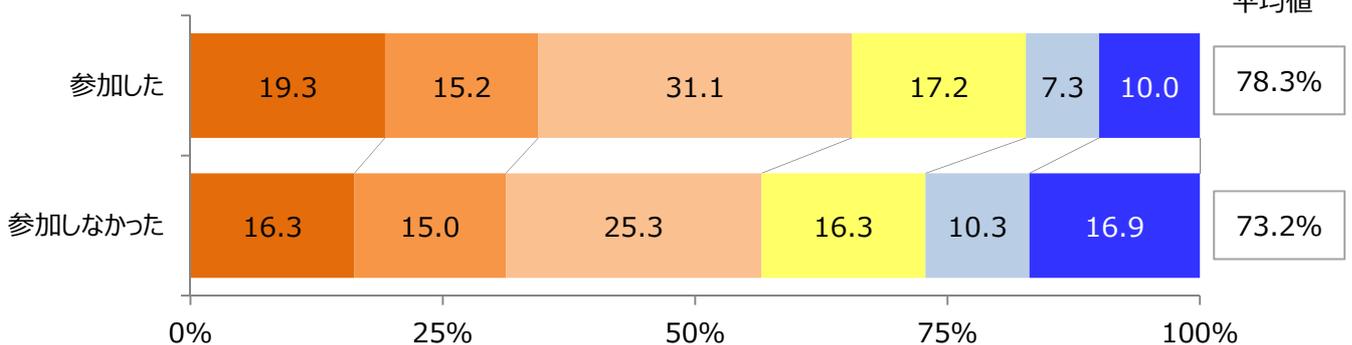
■ 大学受験をやり直せるとしたら、同じ大学・学部・学科を選ぶか（オープンキャンパス参加有無別）

■ 同じ大学・学部を選ぶと思う ■ 同じ大学の、別の学部を選ぶと思う
■ 他の大学の、同じ系統の学部を選ぶと思う ■ 他の大学の、別の系統の学部を選ぶと思う
■ その他（専門学校、海外留学など）



■ 大学生生活の満足度（オープンキャンパス参加有無別）

■ 満足度100% ■ 90% ■ 80% ■ 70% ■ 60% ■ 満足度50%以下



- 全体の約6割（58.0%）の学生が、「オープンキャンパスに参加した」と回答。
- オープンキャンパスに「参加した」グループは「参加しなかった」グループと比較して、受験をやり直せるとしても「同じ大学・学部を選ぶと思う」という回答が9.2ポイント高かった。
- 大学生生活の満足度についても、オープンキャンパスに「参加した」グループは「参加しなかった」グループと比較して、平均で5ポイント以上高い。

IV. コメント集

(1) 大学入学前に知っておきたかったこと

- どんな雰囲気の大学か知らずに入学してしまったため、オープンキャンパスに行ってみるべきだった。 <文系男子>
- 授業の雰囲気やレベルは受けてみないとわからないので、オープンキャンパスなどで模擬授業を行っている場合は、ぜひ参加してみるべきだと思った。 <文系女子>
- アルバイトの経験が就活で話すネタになったりすることがあるので、将来したいことに近いことや、社会人の基礎が学べるようなアルバイトの情報を知りたかった。 <文系女子>
- どの学部に行けばどんな職業に就けるのか、具体的にイメージできるような情報や、卒業生の具体的な就職先などは知っておきたかった。 <理系女子>
- 教育免許を取れないことを入学してから知ったので、事前に調べておくべきだった。 <文系男子>
- 部屋探しに役立つため、大学周辺の環境についてはもっと知っておくべきだった。 <理系男子>

(2) 入学後に感じたギャップ

【良いギャップ】

- 滑り止めと考えていた大学だったので、最初は自分は周りより優れているだろうと思っていたが、入ってみると優秀な人も多く、とても刺激的な学生生活を送ることができた。 <文系男子>
- 地方大学だったが、想像以上に便利な街だった。 <理系男子>
- 意外と国際的だった。 <文系男子>
- 高校と違って、意識の高い学生がいるため、刺激を受けられて良かった。 <理系女子>

【悪いギャップ】

- もっと高度な内容を学べると思っていた。 <文系男子>
- 専攻分野に関連した業界に就職する人が、思っていたより少ない。 <文系女子>
- キャンパスが東京だと思っていたら千葉だった。 <理系男子>
- 学科名から、当然やっているであろうと思った研究をやっている教員がいなかった。 <理系男子>

(3) 大学生活への満足

【満足度が高い学生】

- 様々な地域から集まった、異なる背景をもつ学生と関わることができ、知見を広めることができた。 <文系男子>
- 志望業界に関連する内容を学ぶことができた。 <文系男子>
- 様々なことを学べ、就活支援も充実していた。 <文系女子>
- 学びたいことが学べた。レベルが自分に合っていた。 <理系女子>

【満足度が低い学生】

- 学べると思っていたことと、実際に学べることが違った。 <文系男子>
- 英語教育や国際系の科目に期待して入学したが、実際は国際系の科目が少なく、留学等の補助金やサポートも微妙だった。 <文系男子>
- しっかり下調べをしなかったのもあり、思っていたのとだいぶ違う大学だった。 <文系女子>

IV. コメント集

(4) 大学生活で楽しいと思うこと

- 様々なことを自分の思いでできる事。自らが行動すれば経験となるのは大学生活の一番重要で楽しいことだと思う。 <文系男子>
- 勉強でもスポーツでも趣味でも、自分の興味のあることをとことん追求できる。 <理系男子>
- 自分がおもしろいと思う研究をできていること。それを認めてくれる人や共有できる人が周りにいること。 <文系女子>
- 先生や授業も個性が豊かで面白かった。ゼミやサークルなど活動の幅が広がったと思うから。 <文系男子>
- 研究室の仲間と研究についてディスカッションしたり、皆で遊びに行ったりと、勉強も、遊びも全力で楽しい。 <理系女子>
- サークルがたくさんあるので、必ず自分に合うものが見つかる。 <文系女子>
- 留学したことは、とても充実した経験で楽しかった。 <理系男子>
- 実験をして専門的なスキルが身につくこと、専門分野について理解を深めること。キャンパス内に緑が豊かなこと。自分とはバックグラウンドが異なる人と交流を深められること、その交流を通じて世界が広がること。 <理系女子>
- 友人と好きなときに食事に行ったり、飲みに行ったりできるところ。 <文系女子>
- ゼミ生活は色々大変なことも多かったが、達成感があり、仲間ができた点。 <文系男子>
- 体育の授業や、少人数制のクラスなど、仲良くなれる授業がとても楽しかったです。 <文系女子>
- 一人暮らしをしていたので、自由であることが本当によかった。 <理系男子>
- 大学は時間に余裕があるので友人と遠出や海外旅行できることが楽しい。 <文系女子>
- 自分の好きなバイトをして、稼いだお金で好きに遊ぶこと。専門書を膨大に蓄えた図書館のお陰で自分の好きなだけ勉強ができること。 <理系男子>

(5) 大学生活で楽しくない、嫌だと思うこと

- 自分の時間が増えるが故に、うかうかしていると何もしないまま4年間が終わってしまうこと。一人暮らしをしていくために、アルバイトをせねばならず、時間の使い方が難しい。 <文系女子>
- 最初は「全てが自己責任」という環境に慣れなかった。 <文系男子>
- 先生や学生のやる気がない、質の低い講義を受けること。 <理系男子>
- 自分の将来とは無関係な必修授業への参加。履修したい授業の抽選落ち。 <文系男子>
- 「楽単だから」と興味のない授業を取ってしまうと、そのレポートや試験のための勉強へのモチベーションが上がらず、非常に苦勞する。 <文系男子>
- クラスがないので、友達、知り合いを作りにくい。 <文系女子>
- 自分から積極的に周りに関わらないとコミュニティが狭くなっていくところが大変。 <文系男子>
- 高校時に比べ、飛躍的に広がった多方面での人間付き合いが面倒だと思ってしまうこともあった。 <文系女子>
- 最寄駅に何も無いこと。 <理系女子>
- 家から学校までが遠いこと。最初は頑張れていても、学年が進むにつれて、移動時間が苦痛になっていった。 <理系男子>
- 大学名で勝手なイメージを持たれること。 <文系男子>
- 学生は遊んでいると思われること。 <理系女子>
- 彼女ができていないこと。 <文系男子>
- 仕送りが無いため、お金の面が常に苦しかった。 <理系男子>